

栃木県誕生 150 年記念
知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム ～ふるさと“とちぎ”の魅力と未来～



開催結果報告書



- | | | |
|--------|-----|--|
| 1 開催概要 | 日時 | 令和5(2023)年6月15日(木) 午後2時～3時30分 |
| | 場所 | 栃木県庁本館6階大会議室1 |
| | 参加者 | 知事、教育長、生活文化スポーツ部長
県内各市町の中学生27名(うちオンライン参加1名) |

2 参加者アンケート集計結果

① 栃木県の魅力 自慢できるもの

項目	人数	主な意見
1位 食・農畜産物	20	・いちご、牛乳、干瓢、米、にら ・しもつかれ、ゆば、宇都宮餃子、レモン牛乳、佐野ラーメン
2位 歴史・文化	17	・日光の社寺、足利学校 ・ユネスコ無形文化遺産の各種お祭
2位 自然	17	・渡良瀬遊水地、中禅寺湖、華厳の滝、鬼怒川 ・男体山、三轟山、温泉
4位 暮らし・すみやすさ	9	・自然災害が少ない ・公園がたくさんある ・田舎すぎない ・都心への利便性のよさ
5位 ものづくり	6	・益子焼、結城紬、烏山和紙、藍染め ・県内各地にある大企業の主要工場
6位 スポーツ環境	5	・国体で利用したスポーツ施設 ・プロスポーツチームの活躍
7位 人（県民性・著名人）	1	・U字工事による栃木の魅力発信

② 理想の栃木とは

- ・働く場所が増える栃木県
- ・子どもからお年寄りまで暮らしやすい栃木県
- ・ごみのポイ捨てが無い栃木県
- ・公共交通の発展した栃木県
- ・教育の補助制度が充実した栃木県
- ・スポーツで盛り上げる栃木県
- ・県全体でCO2削減に取り組む栃木県
- ・学力が向上し県民が自信を持てる県
- ・点字ブロックが充実する県

- ・子どもからお年寄りまで暮らしやすい栃木県他県や外国人からも魅力あふれる栃木
- ・魅力度ランキング上位の栃木県
- ・移住したくなる栃木県
- ・豊かな自然を活用した観光立県
- ・交通マナーが良いとして有名な栃木県

県民が
住みやすい
栃木県



県外の人に
魅力ある
栃木県



3 意見交換（要旨）

テーマ① 県民が住みやすい栃木 そのために自分ができること

（矢板市）

多様性を認めて、尊重し合える社会を創ることが大切だと思います。僕は生徒会長として、そういった環境作りを始めています。例えば女子制服についてはスカートではなく、スラックスの導入を考えました。自分は代表としてこの場に来ていますが、学校には発言することが難しい人もいます。自分にできることは、そういう人の代弁者になり生徒全員が輝ける学校づくりをすることだと思います。

（市貝町）

国境を越え、海外の人達や異文化と触れあうことで、更に多様性と深く触れあうことができると思います。海外の中学校への体験学習のようなものをしてほしいと思って提案させていただいたことがあるのですが難しいようですので、栃木県を知ってもらう活動をしていきたいと思っています。

（那須塩原市）

私が住みやすいと感じるのは、自然に囲まれて日々楽しく生活している時なので、若者からお年寄りまで、県民が気軽に集える場所を創るべきだと考えています。具体的には、栃木県を常に感じられる複合施設です。栃木県で生産している食べ物を提供したり、温泉に入ったり、自然を満喫できる施設を提案します。そのために私ができることは県内の魅力をよく知ったり、実際に体験したり、食べたりすることです。また、私の通っている中学校では地域団体に協力していただいて、地域おこしについて学習するので頑張りたいです。

（那須町）

私の学校では生徒会で卒業記念品に手ぬぐいエコバックを贈りました。そのようなことを行って、中学生もCO2の削減等に進んで参加していくことが重要だと思います。私ができることは、生徒会長として学校でそのようなことを考えついたら、小さな意見だったとしても全体に共有して、少しでもできることはないかと考えていくことだと思います。

（茂木町）

観光客を取り入れるのは第一ですが、県民の「住んでいて幸せ」という気持ちを増やして行きたいと思っています。そのために

自分ができることはアンケートに協力し、意見を出すことだと思います。

(真岡市)

点字ブロックをもっと増やしてほしいと考えました。理由は視覚障害者の方の安全確保と点字ブロックを増やすことにより、自分を含めた多くの人たちに点字ブロックの大切さを知ってもらいたいからです。

(宇都宮市)

ゴミがなければ、住んでる人も住みやすくなると思います。私はボランティアクラブに所属しているのですが、ゴミ拾いや駅の掃除をしているので、自分ができることは、そういった活動をもっと広め、自分が積極的に参加して、キレイな栃木県を創っていきたいと思います。

(壬生町)

広い土地があるので、都市の機能や人口を分散させるため、会社や人の誘致が大切だと思います。そのためには子育てのしやすい環境作りや多くの世代が住みやすい県にすることが大切だと思います。また、県内の市町にはそれぞれ特産品や観光名所がたくさんあるので、市町ごとにPRするだけではなく、栃木県全体の魅力として考えていくことが大切だと思います。そのために自分ができることは、たくさんの栃木県の魅力を学ぶことだと思います。今回このような機会をいただいたことで、私も新しい栃木県の魅力に触れることができました。そして今まで自分が学んだことをたくさんの周りの人に話して、共感や興味を持ってほしいです。共感し、興味を持ってもらうためには、他県のことや学び、「あなたの住んでいるところは本当に素敵ですね」と心から伝え、お互いの文化を認め合うことが、特に重要だと思います。

(さくら市)

栃木県の住みやすさアップさせるためにはどんどんお店が増えていけば良いと思います。お店を増やすためには、人口を増加させないといけないと思います。栃木県の観光客を増やすために栃木県の魅力をSNSで発信し、外国人観光客を増やせるように英語などの外国語に興味を持つことが大切だと思います。

(鹿沼市)

都心へのアクセスがよく、情報がすぐに入ってくるところに住みやすさを感じています。情報がすぐに入ってくるということは発信をしてもすぐに広がるということだと思います。私は人が集まってくる栃木県になってほしいです。日本全体の問題として、人口の減少があります。職業体験先の幼稚園で子どもが少なくなっていることを実感し、人を増やすことが大切だと思います。人を増やすには高齢者や子育ての支援をして住みたいと思う魅力ある栃木県を目指すことが大切だと思います。そのために自分が

できることは、栃木県の魅力について知り、それを中学生として発信する形を考えることだと思います。インターネットなどを活用すれば、すぐに広がり、魅力を伝えることが出来るので、まずは知ることから、そして近くの人に伝えることから始めて行きたいと思います。

(塩谷町)

塩谷町では地域おこし活動団体が東古屋という地域で町おこし活動をしています。町おこし活動をした結果、元福岡ソフトバンクホークスで現栃木ゴールデンブレーブスの川崎宗則さんが実際にキャンプに来てくれます。私は栃木県全体の町が地域おこしや町おこしをした方が効果的だと思います。

(栃木市)

周りの県から魅力的だと思われるのも大切だと思いますが、まずは県民から住みやすく、生活環境が良いと思われるのが理想だと思います。そのために私は県民としてゴミ拾いなどを積極的に参加し、町の景観を良くし、地域の人との交流を深めていきたいです。

(市貝町)

地域とのつながりの第一歩として、あいさつをもっと活性化して栃木県に挨拶が増えるようにしたいです。自分の学校では挨拶日本一を掲げていて、定期的に挨拶運動を行っています。地域との関わりの中で、小学校や道の駅など公共施設で挨拶を行う許可を取っている段階ですが、もっと挨拶を通して、地域が明るく活性化することで周りから魅力的に見えてくると思います。

(宇都宮市)

県外の人や外国人に栃木って良いところだなんて思ってもらいたいので、栃木の魅力を伝える会社等に協力することができるとよいと思います。

(野木町)

緑が多くて未来のことを考えられる栃木県になってほしいと思います。私の住んでいる野木町は、緑が多くて、空気がとても美味しいです。だから栃木県全体に植樹をしてCO2を削減し、未来のためにやるべきことを全力で取り組む栃木県になってほしいです。そのために自分ができることは庭に生えている植物等を大切に、また、学校で緑の募金に積極的に取り組んで、緑のことを考えられる栃木県になるように、私も努力したいと思います。

(知事)

皆さんから、住みやすいと感じる栃木県、そのために何ができるのかというテーマで意見を述べていただきました。環境美化のために駅あるいは学校内外のゴミ拾いをして清掃活動やボランティア活動に携わってくれている方々もいらっしゃいました。

また、栃木県に住んでくれる人を増やすために栃木県は良いところですよという情報発信が大切ですねという話がありました。子育てしやすい、結婚しやすい、働きやすい環境も大切であり、高齢者、障害者の皆さんが安心して生活できるように、点字ブロックなどももっともっと整備したほうがよいといった意見もいただきました。

老若男女、障害の有無、どういう人たちであっても住みやすい栃木県、すなわち多様性を認めること、これを学校で、生徒会長として実践しています、というお話もお聞きして大変心強く思いました。みんなで大きな声で挨拶することも大切だという意見もありました。

県庁としても環境美化とか挨拶をするとか子育てしやすいとか、情報発信をして、海外も国内も多くのお客様を栃木県に迎え入れる取組をしていますけれども、皆さんの意見を参考にしながら、引き続き取組を強化していきたいと思えます。

その中で、教育に関する意見が出ました。海外とつながることが必要なので、中学生であっても海外との交流ができないか、あるいはインバウンドで語学教育がもっと必要ではないか、海外のお客様を迎えるのにそんな話がありました。つきましては教育委員会としてこれらの意見にどう取り組んでいくか意見ををお願いします。

(教育長)

貴重な意見をいただきありがとうございます。多様性ということで、女子生徒がスラックスを履くという話がありましたけれども、高校でも校則の見直しを積極的に進めていて、多くの学校で幅広い価値観の中で学びができることに力を入れているところではあります。

それから多様性の1つとして、特に海外留学、海外との交流のお話がありました。やはりこれからの時代は価値観を広げていく、あるいは多様な価値観が世の中にあるということを知っていく、そこがとても大切だと思います。ここ3年コロナがあって、なかなか海外との交流が難しい時期がありましたけれども、今は幸いなことに学校で1人1台のタブレットが入りました。これを活用することによって様々な形で外国とつながり、色々な話ができるようになっていきます。直接行くのは難しくてもパソコンを使って、学校の中から海外の人と直接やりとりをする、栃木県の中でもそういったことを進めていきたいと思えます。

また、多様性、幅広く学ぶための取組として、県の高校ではSTEAM教育が始まりました。これは今まで理系とか文系とか分けていた学問をもっと大きく幅広くとらえていく教育であり、現在4つの学校(真岡高校・栃木女子高校・黒磯高校・宇都宮北高校)で始まっています。皆さんがこれから高校を選ぶときにこういった話題が出るかもしれませんが、多様性、幅広い学びがこれからのキーワードになっていくと思えますので、外国との取組も含めて積極的に進めていきたいと思えます。

(知事)

CO₂の削減に寄与するから、県全体に木を植えましょうという提言もありました。190万の県民が1年間に1本だけ、庭あるいは学校、保育園、幼稚園に木を植えたら190万本が一気に増える。1ヶ月に1回か、3ヶ月に1回か、1年に1回か、県民誰もがゴミを一個拾う日という日を決めたら1日で190万から200万のゴミを拾うことができる。こうしたことを県が音頭をとって、県民の皆さんに協力していただくことはできないだろうか、といったことを考えていますが、なかなか難しい問題もあり実現は出来ていません。

家庭では草むしりをするのが大変だから、砂利を敷いたりアスファルトで固めてしまうなどして一切緑がないという家庭が多くなっているような気がします。お父さん、お母さんが大切にしたものを自分たちの代になったら全部切って舗装してしまうといった話も聞きます。しかし皆さんは、緑を大切にしたいという強い思いを聞いているので、皆さんの仲間から緑を増やすにはゴミも拾う、そういう風土を広めてくれるようお願いしたいです。

テーマ② 県外の人に魅力のある栃木 そのために自分ができること

(益子町)

益子町は「焼き物の町」として全国に知られており、その歴史は今から160年程前の江戸時代の終わり頃まで遡ります。益子町には陶器市と呼ばれる催しがあり、そこでは伝統工芸品である益子焼等が購入できます。栃木県外からも多くの観光客が訪れ、とても賑やかで楽しいイベントです。僕は他県や外国等から今以上に多くの人を訪れる県になってほしいです。そのためには県全体が活気に溢れ、明るい挨拶が交わされる雰囲気の良い環境作りが大切だと思います。今から私たちが今以上に元気な挨拶や地域の方々への声かけ等を意識し、ボランティア活動など地域の活動に積極的に関わっていきたいと思います。

(宇都宮市)

栃木県が交通マナーの良い県として有名になれば良いと思います。県外の方が安心して観光に来られるだけでなく、県民の皆さんも安心して暮らせると思います。そのために私たちができることは、栃木県の交通マナーについて調べて、もっと改善できることはないか知ることが大切だと思います。調べたことを周りに伝え、SNSで発信したいと思います。

(日光市)

私は栃木県にはたくさんの魅力があると思います。しかし県外からの評価が低いのが現状だと思います。それがなぜなのかを私なりに考えてみた結果、魅力をうまく引き出せていないのではと思いました。それを改善するためには魅力を引き出し、幅広い人たちに知ってもらう必要があると思います。自分ができることとして、地域と向き合い、新たな魅力を発見し、世界に向けて発信

していくことが必要だと思います。

(那須塩原市)

県外の人が栃木県を訪れるときに多くの人を使う交通手段は新幹線、高速道路だと思うので、駅とサービスエリアで栃木県の魅力を強調することを提案します。また、それらの場所から観光地へ行く道路に栃木県を感じられる工夫をすることを提案します。そのために私ができることは他の県の駅、サービスエリアにどのような工夫がされているかを実際に目で見て確かめることです。

(市貝町)

自己紹介や話し合いの中でみなさんから多く出ていたのが都市へのアクセスの良さでした。都市へのアクセスの良さは栃木県等の関東地方の限られた地域にしかない大きな武器だと思っています。東京という大消費地に近いことを生かして新鮮な作物などを送ることができるので、アクセスの良さをうまく使って栃木県をアピールすることが効果的だと思います。

(下野市)

栃木県の魅力をもっと発信することが大切だと思います。先日、京都に修学旅行へ行ったときに、タクシーの運転手さんと「栃木県から来ました」と話していると、「U字工事のところね」と言われました。そのときにテレビやメディアで発信している情報は県外の人にしっかりと届いているものなんだと思いました。そこでテレビやSNS、ホームページを使って、もっと栃木県の魅力、著名人の方々、食事や伝統文化、それぞれの良さを発信できたら良いなと思いました。

(矢板市)

栃木県は海無し県ですが、海の無い県の魅力を伝えたいです。また、父がいちごの農家ですが、いちごのおいしさ、すばらしさを栃木県の良いところとしてPRし続けることが大切だと思います。

(佐野市)

地域とのつながりを大切にすることが大切だと思います。例えば挨拶です。私の学校では「挨拶カード」というものを使用して、15枚シールがたまると表彰するという活動をしています。それを行うことで一人一人が自分から挨拶をしようとする意識が芽生え、全員が大きな声で挨拶をすることが出来ました。また、地域の祭り、体育祭等の学校と地域を繋ぐ行事がありますが、地域の人とつながることができる時間を生徒会長として取り入れたいなと思います。

(那須町)

県のPRをたくさんすることが大切だと思います。このような場があって、私はたくさんの方のことを色んな人から学ぶことができ

ているので、県内の中学校が合同で話し合いをする機会をいずれ作りたと思っています。

(上三川町)

最近では都会に疲れて自然やのどかなところにすみたいという人が増えてきている傾向にあるので、栃木県の日光の山々や那須、鬼怒川、那珂川等の自然豊かな栃木県を紹介することによって移住者の増加や栃木県の魅力発信につながると思います。

(大田原市)

メディアで日光東照宮が栃木県にあると知らない人がいることを聞きました。有名な場所をもっとPRすることで県外の人に魅力を感じてもらえると思いました。

(小山市)

栃木県がどのような県で、どのような魅力があるのかということを知ってもらうことが大切だと思います。栃木県は都心から近いことが最大の魅力だと思うので、都心の人簡単に観光に行きたい時に来られるのは、栃木県の魅力だと思います。日光の社寺やユネスコ無形文化遺産に登録されているものも多くあるので、それを伝えていけるようにしていきたいと思っています。

(那須烏山市)

栃木県には伝統あるお祭り、伝統工芸品、ご当地グルメ、温泉、観光施設といったたくさんの魅力があると思うので、それを巡るスタンプラリーを積極的に開催してほしいです。家族でも楽しめますし、広い世代に興味を持ってもらえるので、SNS等で発信し県外からのお客さんもたくさん呼び込めると思います。

(足利市)

栃木県は20代の人に評価が上がって来ていると思います。その理由は旅番組などで取り上げられているということをアンケートで知りました。旅番組を今後増やしていき、色んな人に知ってもらうことが大切だと思います。自分にできることは栃木県のことをもっとよく知り、周りの人にどんどん広めていくことが大切だと思います。

(生活文化スポーツ部長)

今回県誕生150年の良いタイミングなので皆さんに栃木県の魅力を知ってもらい、栃木県をもっと好きになって、栃木県を発信していただき、更に栃木県がもっと良くなるようにと思っていましたが、皆さんの意見を聞いて、本当に皆さん栃木県のことをよく知っていて驚きました。栃木県のことをこんなに勉強してくれてこんなに愛してくれているということで非常に心強くなりました。私たちも150年を機に1年かけて栃木県の魅力を発信していきますし、色んなイベントを各地で行っていきますので、ぜひ参

加いただければと思います。

また、「交通マナーの良い栃木県」をアピールしたいという意見も素晴らしかったです。県では、自転車のヘルメットの着用促進を昨年の4月から取り組んでいて、中学生の皆さんはヘルメットをつけて学校に行っていると思いますが、高校生になるとヘルメットをかぶらなくなってしまう方が多いです。是非皆さん、高校に行ってもヘルメットをかぶって皆さんの命を守ってほしいと思います。

それから、栃木県には文化が沢山あって、文化が優れた県だという意見もありましたが、魅力実力ランキングにありますように、本県は全国に誇れる文化資源に恵まれており、ユネスコ無形文化遺産、世界遺産、日本遺産、たくさんの文化資源があります。それらを県の方でデジタルミュージアムという文化資源をまとめたサイトを開設していますので、「とちぎデジタルミュージアム SHUGYOKU(珠玉)」で検索していただくと、栃木県のような優れた文化資源がウェブサイトで見られます。そこでまた勉強していただいて更に皆さんに発信していただければと思います。

最初にスポーツの話がありましたが、実は栃木県はいちご王国だけでなく「スポーツ王国とちぎ」という言い方もしています。レベルの高いプロスポーツチームが8つ（宇都宮ブレックス EXE を含む）ありますし、スポーツの施設提供業数は人口10万人当たり、全国最多と言われています。栃木県はスポーツの環境が充実しているところです。国体も非常に良い成績で終わりましたので、これから大きな大会を県内に誘致して、全国から栃木県にスポーツを見に来てもらい、その際に豊かな自然とか食とか環境などをPRして、スポーツを通じて人を呼び込むことを検討していきますので、皆さんも栃木のスポーツをどんどん応援してください。

（知事）

県下の中学生が意見交換をするような場所をもっと設けてほしいという意見もありました。こういうことって今までにはなく初めてのこともかもしれません。しかし、県内の人がかこうして1カ所に集まるというのは大変なのかもしれないので、県内をいくつかのブロックに分けて、そこで各代表の何人かの人たちが集まって意見交換をすることは可能かもしれないと思いました。さらには生徒会が地域の人たちと意見交換をしたり交流をするといった意見がありましたが、こういう声に教育委員会としてどう応えますか。

（教育長）

今、知事から宿題をもらったところですが、皆さんからの意見を聞いていてもっともだと思いました。確かに今までそういった場はありそうでなかったかもしれません。

昔はとにかく色々な事を覚えて、試験も記憶力を試す試験が多かったんですが、これからの時代は考える力がとても大切です。そのときに先程の話にあったように多様性がとても大切になっていきます。そういう意味では色々な人の話を聞く、色々な人と意見を交換する、それはとても大切なことなので、ぜひいただいた宿題をどういう形で実現できるか考えて行きたい。今でもオンラ

インを使えばそんなに難しいことではないかもしれませんが、やっぱり直接会ってやった方が良いということであればそういったやり方も出来ます。

先日、G7こどもサミットがありまして、県内の中学生、高校生が集まって、意見交換してまとめた宣言文の発表を、来週正式に提案するのですが、とっても良いものが出来ました。今の皆さんには意見交換をして何かを創っていくという力が備わっていると思いますので、ぜひその力を伸ばしていくための取組をしていきたいと思います。

また、生徒会と地域の連携っていうのは、キャリア教育だけではなくて、お年寄りも子どももいる地域に出て行って、地域の人と一緒に学んでいく、それも一つの多様性かもしれませんが、ただ学校で机の上で学ぶだけではないという教育になってきましたので、頂いた意見を実現できるように頑張っていきたいと思います。

(知事)

駅あるいはサービスエリアをもっと有効活用して観光PR、あるいは栃木県の魅力発信に使ったらどうかという意見がありました。JR宇都宮駅や大宮駅、あるいは上野駅などで県は1年に何回か魅力発信事業をやっていますが、県内の駅、東武線やわたらせ渓谷鉄道、真岡鐵道、野岩鐵道、JRなどたくさんありますので、そういったところや高速道路のサービスエリアを使って情報発信をする場合には、中学生の皆さんも一日観光大使を名乗って一役買ってもらうようなことを皆さんにお手伝いいただき、観光PRをしていくということもできるなと思いました。

さらにテレビで栃木県を取り上げる旅番組が多くなってきたのでお客さんも増えてきたのではないかと、という意見がありました。テレビで取り上げてもらうためには中学生の観光大使が一生懸命頑張っているんですよ、ということのほうが話題性があるので、積極的に東京のテレビ局が来て場組を作ってくれるかもしれない、我々だけでやっているとどこでもやっていることですからニュースにはならないし番組も出来ませんということになりますので、特色を出しながらさらに多くの栃木県内の番組を作ってもらいたいと思いました。

それから観光スポット、豊かな自然、歴史文化、益子焼などの地域の伝統工芸品などをどんどんSNSを使って、情報発信をしていく必要がある、という意見もありましたので、今も進めています。更に取り組む必要があると思いました。加えて観光地を巡るスタンプラリーなんかをもっと広域に取り組んだらどうかという意見もありましたので、これから参考にしていきたいと思います。

しかし交通マナーが悪かったり、挨拶もしないようなところにお客さんは来てくれませんので、県民挙げての挨拶運動、おもてなしでの対応、さらには交通マナーを高めていく、これらについても更にしっかりと取り組まなければならないと改めて思いました。皆さんのフレッシュな意見をたくさんもらうことができ、大変うれしく思っております。

昨年開催しましたいちご一会とちぎ国体、障害者のスポーツ大会(いちご一会とちぎ大会)のレガシーを残す取組として、全国大会、世界大会や大学や高校などのスポーツ合宿などを栃木県で開催してくれる場合に、積み立てた5億円の基金を活用した支援事業を今年スタートさせます。スポーツで栃木県に来てくれた選手の皆さんに、各地域に観光もしてもらうことにもつながるよう

に県・市町・各競技団体と連携して取り組んでいくことを決めました。

つきましては皆さんの意見も取り入れながら、皆さん一人一人が描く理想の栃木県に近づくように栃木県庁もしっかり取り組んで参ります。ぜひ中学生の皆さんも中学生として出来ること、これから高校生になるので、高校生になってから出来ること、大学生になってから出来ること、社会人になってから出来ること、これらをずっと個々に考えてもらって栃木県が魅力を高め、多くの皆さんに良い県だね、行ってみたいね、また来たいね、と言ってもらえるような栃木づくりの役割を一人一人に是非とも担ってもらいたいと、意見をお聞きして心から思いました。改めて皆さんの協力を申し上げてこのテーマの意見交換を終了します。

4 知事メッセージ

栃木県誕生 150 年目の県民の日に、県内各地から、またオンラインで参加いただき、若い中学生の皆さんと意見交換できたことを嬉しく思います。

皆さんが、自分たちが描く栃木のために何ができるのかを真剣に考え、地域と積極的に関わろうとごみ拾いやボランティア活動に参加し、またこのような意見交換がしたいと思ってくれたことをとても頼もしく思います。今朝の新聞に今年創業 150 年を迎えた県内企業についての紹介がありました。その中で、全国でトップの業容を誇る石灰業の社長が事業発展した転機として「人との出会い」を挙げていました。その石灰業の会社が当時取引していた企業の社長が、鉄鋼業発展の観点からライバル企業との事業を快諾してくれて大きな飛躍となったそうです。その会社は今後 AI（人工知能）などを活用し進化を目指しつつも、人を大切にするという経営理念の下、社員が成長することで会社も成長するという相乗効果を語っていました。今の時代は SNS でつながっているのも人とのつながりでもあると思いますが、皆さんには、対面で話し意見を聞いて友達になって、いい意味での人生の競争相手となる人との出会いをたくさん作って自らを成長させてほしいと思います。

皆さんは新しい栃木県を創る原動力となる人たちです。これからも様々な経験を積んで、その力を地域社会づくりに役立ててほしいと心から思います。皆さんの健やかな成長と今後のご活躍を期待しています。



栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のとちぎ